

HEXAGRAM MAGIC

「ヘキサグラム・マジックで描く」

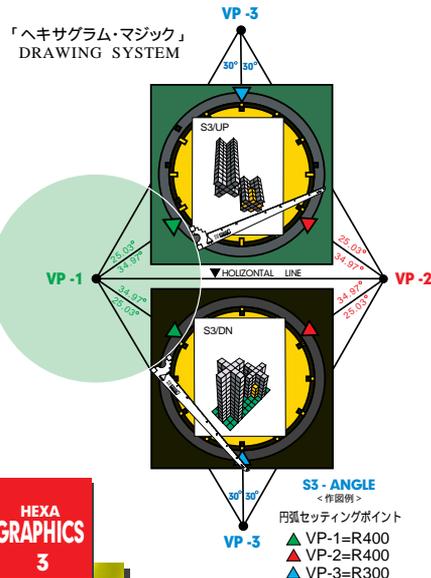
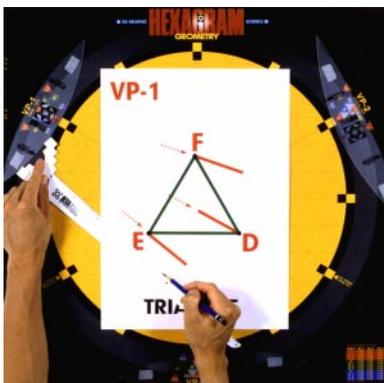
ヘキサグラムマジックは、ヘキサグラフィックスをスピーディーに描くための、ドローイングシステムです。ヘキサの3D作図法とヘキサツールを用いて、あらゆる3次元世界を表現します。



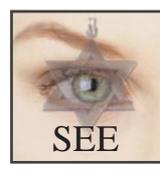
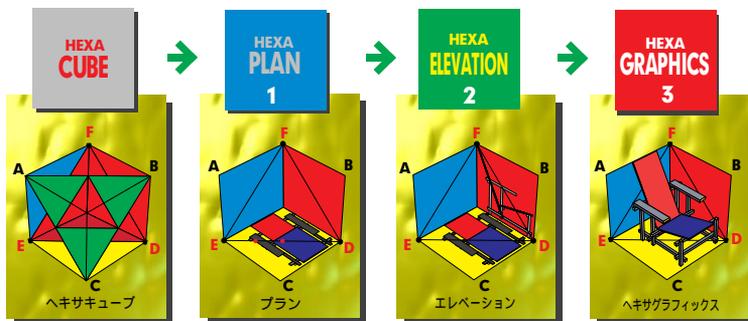
「独創的な3次元感覚を磨く
ヘキサグラム・マジック」

ヘキサグラム・マジックは、自然な放射線による3次元表現が、明かな図法システムによって、誰にでも正確で簡単に描くことが出来ます。ヘキサグラム幾何学独自の空間認識の中で、正しい奥行きを持った3次元のモノの形をドローイングすることは、立体に対する視点の違う考え方や、新しい形の発見につながります。ヘキサグラム・マジックは3次元的な様々なアイデアの源泉となる「思考の図法」であり「思考の道具」でもあります。

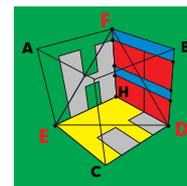
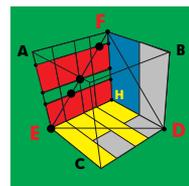
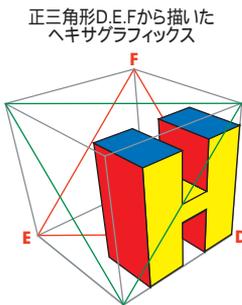
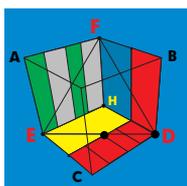
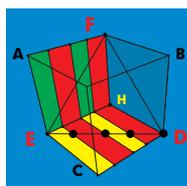
あらゆる形を正三角形から描きます



HEXAGRAM MAGIC



ヘキサグラム幾何学が開発した3次元表現システム、「ヘキサグラム・マジック」は、自由で独創的な立体思考を養うためのシステムです。「ヘキサグラム・マジック」は、60度座標のヘキサ原理をプログラムした、3つの「ヘキサグラム・ツール」を使って、3次元立体を「平面」「立面」「立体」と描いていく新しい3次元表現システムです。



Dから間口の数値を取る

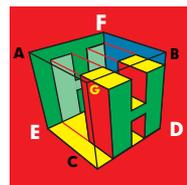
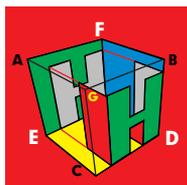
Dから奥行きの数値を取る

Eから高さの数値を取る

立面を完成させる

正三角形のDE線上に、Dからオブジェの間口の寸法を取り、VP-1から放射線を引く。同様にDから奥行きの寸法を取り、VP-2から放射線を求め、平面を完成する。

正三角形のEF線上に、Eから高さの寸法を取り、VP-2から放射線を求め、平面の立ち上げ線の交点で立面をつくる。この時FHに交ったポイントを、VP-1からの放射線で、BDまで延長しておく。



平面と立面の相対点を結ぶ

ヘキサグラフィックスの完成

平面の各ポイントをVP-3から立ち上げ、2つの立面から平面に相対するポイントをVP-1、VP-2から求めれば、3D-ヘキサグラフィックスが完成する。

HEXAGRAM MAGIC

「ヘキサ3D作図法」



ヘキサグラム幾何学の3次元作図法は、ヘキサ立方体の内の3面と外の3面の6面を基本に、ヘキサグラムの60度座標上に描く形態の実長を取り、3方向からの放射線で、「平面」と「立面」をヘキサ立方体の壁面に描き、次に、描かれた平面と立面の対応するポイントを結んで3次元の像「ヘキサグラフィックス」を完成させます。

3次元の作図法の標準化

GROBAL STANDERD

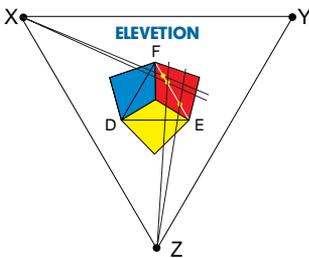
平面 < PLAN >

立面 < ELEVATION >

立体 < HEXA GRAPHICS >

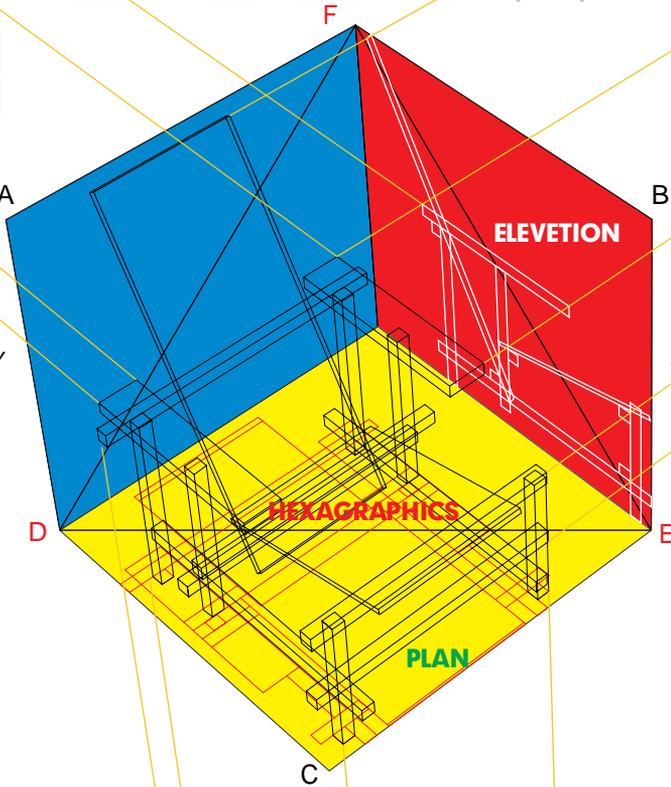
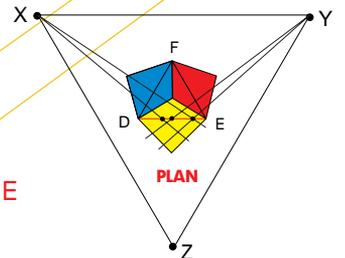
正三角形の「斜辺」に立面の寸法

正三角形の斜辺EFに3次元形態の立面の「高さ」の実寸のポイントを取ります。ポイントを通る放射線を「X,Z」から求めます。



正三角形の「底辺」に平面の寸法

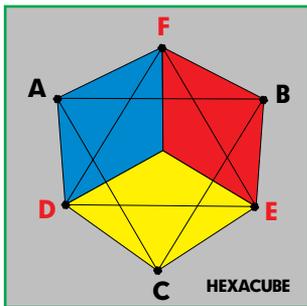
正三角形の底辺DEに3次元形態の平面の間口、奥行きの実寸のポイントを取ります。ポイントを通る放射線を「X,Y」から求めます。



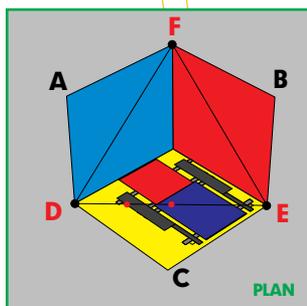
ヘキサ立方体の「内の3面」を使って
描いたリートフェルトの作図

ヘキサグラフィックスの作図法は、描く対象によって、ヘキサ立方体の内の3面と外の3面の6面を使い分けます。

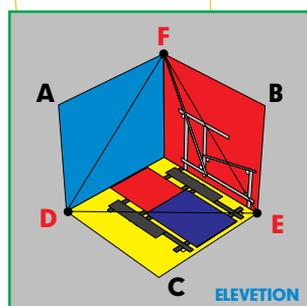
ヘキサ立方体の3次元空間を基本として、表現したい形態を、「平面」+「立面」=「立体」とシステムに描いてゆきます。



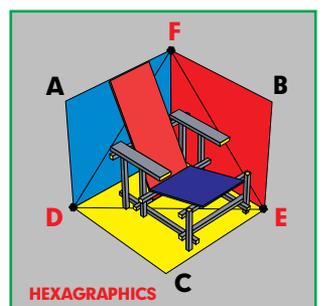
基本となるヘキサ立方体



平面の作図



立面の作図



ヘキサグラフィックスの完成

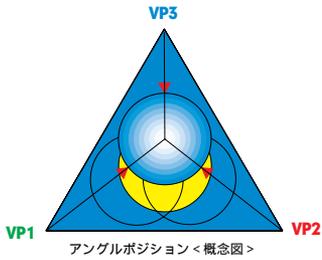
HEXAGRAPHSICS

「ヘキサ3D作図法」

平面 PLAN + 立面 ELEVATION = 立体 HEXAGRAPHSICS

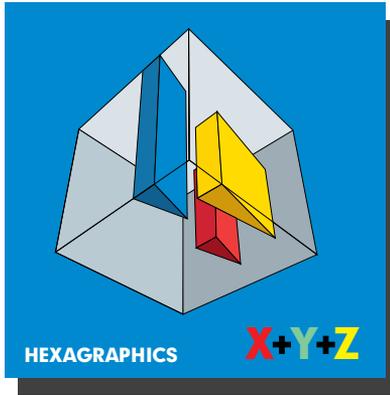


S3
HEXA - EYE
1/4



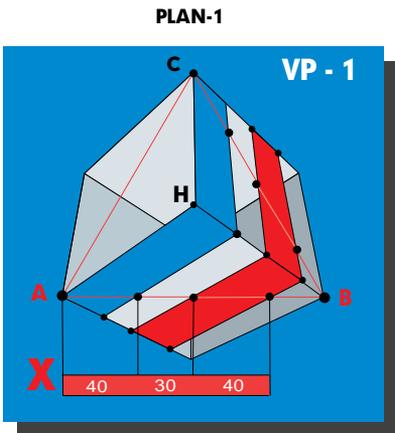
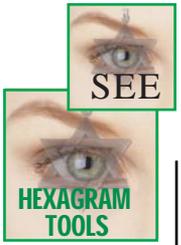
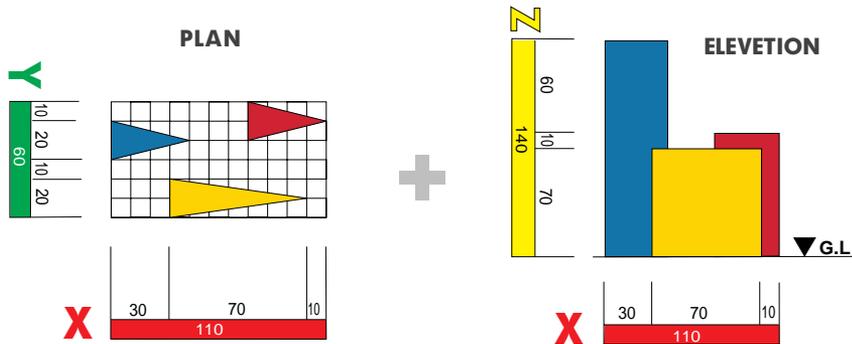
S3/UP

VP1=R400
VP2=R400
VP3=R300

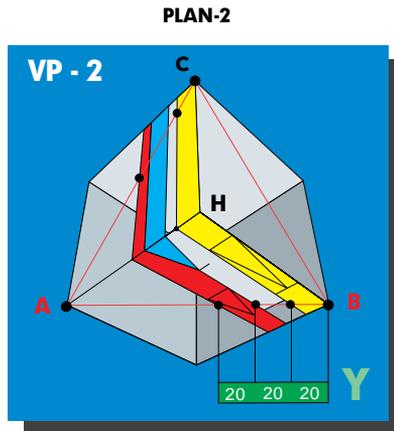


「ヘキサグラフィックス」の3D表現の世界

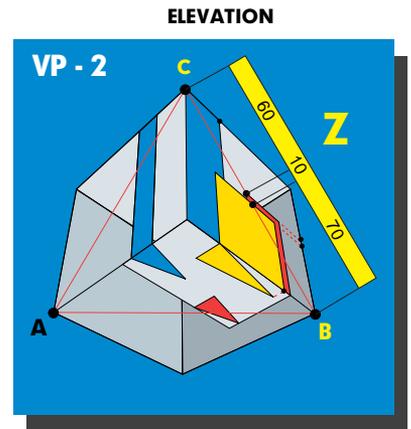
「ヘキサグラム・マジック」の作図法は、全ての立体を、ヘキサキューブの中で捉え、60度座標に取った3次元の数値をもとに「平面」「立面」「立体」と描いて行きます。「ヘキサグラフィックス」は、人間の視覚で捉えきれない13次元の微妙なニュアンスを発見出来る、ユニークな3D表現法です。



正三角形のAB線上に、Aから平面のX数値のポイントを取り、VP-1から線分HBまでの放射線を引きます。線分HBの交点は、VP-3からの放射線で立ち上げておきます。



正三角形のAB線上に、Bから平面のYの数値のポイントを取り、VP-2から線分HAまでの放射線を引きます。PLAN-1との交点を結んで3つの三角柱の底面を完成します。



正三角形のBC線上に、高さの数値を取ります。VP-3からの放射線で、PLAN-1で立ち上げて置いた線との交点で、3つの三角柱の立面を完成させます。

「平面」 + 「立面」 = 「立体」 完成した平面の各ポイントをVP-3から立ち上げ、VP-1からの立面のポイントを通る線との交点が、求める3つの三角柱の立体ポイントとなります。